30 周年記念特別交流会

佐藤 正博*

30 周年記念特別交流会は、学会創立 30 周年を記念した事業の 1 つであり、第 29 回年次大会の初日の 6 月 20 日夕方に開催された。その趣旨は、学会の会員などが集まり、相互に交流しながら、この 10 年程度の技術進展をポスター形式で情報交換し、これからの 10 年を一緒に語り合う場を作ることであった。またリラックスした雰囲気にするため、軽食やお酒も用意された。筆者は特別交流会の準備に関わり、また当日の司会も担当した。そのため、以下の報告には主観が混じるが、ご容赦頂きたい。

2 階の「太陽の間」(A 会場から D 会場までをつなげた会場で、懇親会会場の 2 倍の広さ)に、101 件のポスターが掲示された。30 周年記念事業実施委員会の横井委員長(東京大学)の開会の挨拶と司会によるスポンサー企業の紹介、そして荒川前会長(日本ゼオン(株))の乾杯により、特別交流会はスタートした(図 1、図 2)。

特別交流会では、「交流」を促進する仕掛けが 2 つ用意された。1 つは、1 分間スピーチである。1 人 1 人の発表者が自分のポスターの前で 1 分間のスピーチをし、その様子が学生アルバイトによって iPad で撮影され、会場前方の 4 つのスクリーンにリアルタイムで投影された。掲示したポスターをもとにした技術進展のプレゼンテーションに加え、自社の CM ソングを歌った方や、地元のお酒(詳

図 2 乾杯(荒川前会長)

細は後述)の良さを PR した方など、各自、趣向を凝らしたスピーチで、場を盛り上げていた。筆者は司会として、右手にストップウォッチ、左手にベルを持ち、時間を大幅に超過した場合は「チン!」と鳴らして発表を止める準備をしていた。しかしほとんどの発表は時間内に終了し、101 件のスピーチは予定よりも少し早めに終了した。

「交流」を促すもう 1 つの仕掛けは、全国の公設試の先生方によって厳選された各地のお酒(日本酒 23 本、ワイン 2 本、焼酎 1 本、合計 26 本)であった。特別交流会の中盤でこれらのお酒がお披露目されると、多くの参加者が会場後方のバーカウンターでお酒を楽しんだ(図 3)。お酒のお披露目が遅かったせいか、予想に反して、特別交流会の終了時刻になってもお酒が残ってしまった。残ったお酒は、翌日の懇親会に持ち越された。

以上 2 つの仕掛けにより、ポスターやサンプルを見ながら議論をしたり旧交を温める姿が、会場のあちこちで散見された(図 4)。

最後に、齊藤前副会長(東京工業大学)による閉会の挨拶があり、特別交流会は終了した(図 5)。名残惜しそうな参加者も多かったが、翌朝の講演に備えて会場レイアウトを元に戻す必要があり、急いでポスターが外されていった。

特別交流会で掲示されたポスターの予稿が、「創立 30 周年記念冊子」に掲載されている。ポスター同様、ここ 10 年程度の学術研究・技術開発の進展が研究機関や企業ごとにコンパクトにまとめられており、「研究総覧」のような貴重な資料になっている。ただ、通常の研究総覧と異なり、・10 年というロングスパンの動向がまとめられている。・日本国内限定ではあるが、101 件という多数の研究機関や企業における動向が集められている。

図 1 開会の挨拶(横井委員長)

JSPP 30th Anniversary Special Exchange Meetings

* Sato, Masahiro

パナソニック(株) オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 メカトロニクス事業部 生産技術センター
三重県度会郡玉城町田宮寺(〒519-0492)
sato.ms@jp.panasonic.com
2018.7.18 受理

図3 各地のお酒を楽しむ皆様

図4 会場風景

図5 閉会の挨拶（齊藤前副会長）

という特徴があり、創立30周年記念にふさわしい「成形加工に関する知のストック」を作ることができたのではないかと思います。記念冊子をお持ちの方は、「記念」としてしまいい込む前に是非とも一度目を通して、会誌「成形加工」2018年7月号「学会創立30周年記念号」と併せて日頃の学術研究や技術開発に役立ててほしい。

特別交流会のようなイベントは、本学会としては初の試みであった。そのため準備段階や当日の運営において、良くも悪しくも「走りながら考える」部分があり、関係した方々にご迷惑をかけた部分が少なからずあったと感じる。しかし、特別交流会を何とか無事に終了できたのは、ポスター発表の呼び掛けにご協力いただいた皆様、会の主旨に賛同して発表・参加していただいた皆様、運営にご尽力いただいた30周年記念事業実施委員会の委員や学生アルバイトの皆様など、多くの方々のご協力の賜物である。ここに記して、感謝申し上げる。